

SNAPSHOT



Ghosts of destruction

破壊の幻影

Nature Vol.447(123)/10 May 2007

編隊を組んで飛ぶジェット機の飛行機雲？ 枯山水の禅庭の砂に熊手で描かれた規則正しい文様？ それとも、大草原を並んで進む刈り取り機の集団？

いや、これは中国の沿岸でエビ漁をするトロール漁船群を捕らえた画像である（右の枠内に拡大像）。これらの長い「泥の航跡」は、エビ漁の網によって堆積物がかき混ぜられてできたもので、漁船が通った跡に海底生態系が攪乱されていることがはっきりと見てとれる。

保全生態学者であるデューク大学（ノースカロライナ州）の Kyle Van Houtan と水産関係の専門家であるブリティッシュ・コロンビア大学（バンクーバー）の Dan Pauly は、Google Earth で入手できる衛星画像で、こうした泥の航跡をたくさん見つけた。メキシコ湾からマレーシアまでのリモートセンシング画像には、海上のさまざまなようすが捕らえられており、1隻の船がひくトロール網の数もわかるし、混獲して船外に捨てられる魚をごちそうになると、漁船の周りに群れ飛ぶ海鳥も白い点として見えている。

今回のこの画像は、2003年2月20日に商用衛星クイックバードが長江の河口付近にある江蘇省沿岸を撮影したものの。10隻のトロール漁船団がそれぞれ

1キロメートル四方をカバーしている。

Van Houtan と Pauly は現在、漁業が生態系に及ぼす影響を把握するため、クイックバードや地球観測衛星ランドサットなどの衛星データを使って、こうした漁船がどれくらいの量の堆積物をかき混ぜているのかを高精度で割り出そうと、研究を進めているところだ。彼らの話では、トロール漁を繰り返すことで、海底の状態が恒久的に変化して、この海域の上層にすむ生物たちの生態系まで変えてしまう可能性があるという。

「想像も大事だが、画像だってそれに負けない。1枚の画像を見れば、漁業の及ぼす影響や海に対する1つの姿勢を具体的に見ることができるのだから」と Van Houtan は語った。 ■